

## 「今、二本松市に求められているもの」

今から半世紀ほど前、丹羽十万石の城下マチ「二本松」が全国・海外から脚光を浴びる機会に恵まれました。最近ではご記憶の方も少なくなりましたが、1970（昭和45）年3月15日（日）から9月13日（日）までの半年間、大阪・千里ヶ丘で開催された『70年大阪万博』会場に「杉成り」を付けた「二本松提灯まつり」のあの山車が展示され、お祭り広場のシンボルとして人気を博したのです。岡本太郎の「太陽の塔」とは別にもうひとつの主役であったと記憶しています。期間中の入場者は日本の人口のおよそ半数にあたる6,421万8,000人、提灯山車はテレビ・ラジオ・各紙の紙面に繰り返し登場し、記念写真のスポットともなって、その宣伝効果は計り知れないものがありました。

経済成長期とも重なって“一度奥州二本松を訪ねてみようか”という歴史探訪の旅のきっかけをつくり、霞ヶ城公園の来訪者をはじめ、安達太良山のハイカーの増加、麓の岳温泉・塩沢温泉郷の宿泊観光地のにぎわいなど地域全体の交流人口増にも貢献しました。

この度「二本松市未来戦略会議」に参加の機会を賜わり、歴史的な震災・原発事故からの復旧・復興のこの時期だからこそ悲観論を排除し、二本松を取り巻く緑豊かな雄大な大自然と温泉郷、歴史上の文化遺産、二本松が生んだ先人の姿を顕彰しつつ、二本松の魅力を再認識し、自信をもって広報宣伝戦略を再構築するならば、価値観多様化の難しい時代にも十分対応出来るものと確信いたします。



来年（2019年）4月11日に迫っている「全国桜シンポジウム」と「ワールドカップラグビー」開催時の交流人口対策、2020年の東京オリンピ

ック開催年の対応についてはすでに行政レベルで十分に検討されていることと存じますが、これと並行し、この度の未来戦略会議のワーキンググループとなる実務者プロジェクトを立ち上げ、団塊の世代が全て75歳以上の後期高齢者となる『2025年』を目標として観光スポットの再整備を進め、二本松市のインターネットホームページの充実強化をはじめ、すでに発行済みの史料・リーフレット等についても徹底した見直しを行う必要があります。

すでに検討見直しの対策になっているものも多いと存じますが、以下、気が付くまま順不同で列記を致します。

1. 早池峰山（岩手）と共に、かつて東北地方を訪れるハイカーの双壁の位置にあった安達太良山（安達太郎山）について、震災直前の年間20万7千人（平成29年12万人）の入山数を取り戻すため、二本松市が呼びかけ人となって仮称「あだたら円卓会議」を立ち上げ、安達太良連峰を取り囲む二本松・大玉・本宮・郡山・猪苗代・福島と協調して広報戦略、四季を通じてのイベント等に新味を加える。

“甦えるほんとうの空 安達太良の山並み”

- 奥岳（ロープウェイ）コースと共に湯川コース（藩制時代の火薬庫跡）、遠藤ヶ滝コース、野地温泉、中ノ沢コース等の再整備
- くろがね小屋の改築、避難小屋等の整備

2. 岳温泉・塩沢温泉・中ノ沢・沼尻温泉等についても、名称を「安達太良温泉郷」としてアピールし、少子・高齢化時代の国内リピーター対応の宿泊施設充実強化（介護ホテルについて要検討）と地産地消メニューの再構築、サービス全体の見直し。中国・台湾・タイ・ベトナム等、東アジアからの来日観光客急増（現在首都圏など三大都市・北海道中心）に対応する受け入れ体制について前向きに検討する。

3. 二本松少年隊を含む「戊辰戦争」については、この度の150年とか5年刻み10年刻みの年月にとられることなく、見易く 親しみ易く 分かり易い資料を再編し、特に「二本松少年隊」については、小説「二本松少年隊」－1939（昭和14）年 安藤信著－をもとに読み易い小冊子化を図り、古関裕而作曲（唄・伊藤久男）の二本松少年隊のCD化（歌手は新たに若手を起用）を進めてはどうか。また霞ヶ城公園（戒石銘）・智恵子記念館・黒塚ふるさと村・将棋の墓・駅前文化施設等の巡回ルートについて半日・一日コースの設定、巡回マイクロバス等の運行についても検討する。あわせて、歴史的観光スポットの説明板の充実。
4. 上記、観光歴史探訪スポットに加え、国道4号線 道の駅について、「足湯」・「共同入浴施設」の新設について検討出来ないでしょうか。
5. 当面の広報・PR手段として、JR東日本の月間広報誌 トランヴェール（Train Vert）、JR東海・JR西日本の広報誌はかなりの訴求力を持っており、「二本松少年隊物語」、「二本松提灯まつり」、「黒塚伝説」、先人顕彰としての「朝河貫一物語」等を早い機会に扱って頂くよう働きかける。尚、朝河貫一博士については、父 朝河正澄とあわせて顕彰の必要があります。
6. 「二本松市 先人・偉人選考基準」を改め、1999年初版・2004年二版発行の「歴史浪漫～ふるさとの人物史」について、日本画の大山忠作（1922－2009）等、美術・芸術部門をを加え、年号が改まるのを機会に再発行を検討してはいかがでしょうか。
7. 農業団体とも協議し、二本松市内 遊休農地 について首都圏在住者向け『ふるさと菜園』—1区画（15坪～20坪程度）を当面100区画～200区画開設し、種まき・植え付けシーズン、シーズン中間の管理期間中、

収穫期の3回程度、1泊2日で現地入りする等の方法で二本松市との交流を深めて頂く。そして、これをきっかけに「二本松提灯まつり」若連参加などのチャンスを広げるなどの方法は考えられないのでしょうか。

また、二本松市内の農業生産物について、各宿泊施設・道の駅等での地産地消の徹底と県外発信の名産品化に向け、5か年計画・10か年計画を立てて全力で取り組んで頂けないでしょうか。

#### 8. 二本松市の「インターネットホームページ」の充実強化

9. 広報戦略上、在二本松市の地元二紙のほかに、NHKと民放テレビ4局・ラジオ2局について、毎月1回、イベント・代表的行事等について資料の投げ込みに加え、上期・下期の2回程度市長・教育長同席の昼食会（会費制）による意見交換懇親会を実施して頂けないでしょうか。特にテレビ媒体については、4局巡回による番組制作放映化とBS等全国発信の実現について検討して頂けないでしょうか。

10. 雇用創出の企業誘致については、市政最大の課題のひとつとしてご検討頂くと共に、現状経過をお聞かせ頂きたい。



『歴史に学び 先人に学ぶ』— 二本松の足跡の 検証 と幾多の先人たちの 顕彰 —  
こそは、今の時代に生きる私たちの責務であり、二本松の自然と歴史・伝統行事に興味を示される多くの方々に、これまでも増して四季を通して訪れていただくようになれば、最早何も申し上げることはございません。

二本松にはその環境と条件が整っていることを再認識して頂きたいと存じます。

この度の二本松市未来戦略会議については、全庁（市長、教育委員会）、市議会、経済団体、青年会議所、農業団体等代表によるオール二本松のワーキンググループ（プロジェクトチーム）を設置、団塊世代が全て75歳以上の後期高齢者となる『2025年』前年までを目標とし、年次計画によって全面的見直しを行う。申し上げるまでもなく、平成30年度実績で4億1,800万円にのぼる観光予算（うち広報宣伝費3,000万円）をはじめ、予算編成全体についても思い切った見直しに向け取り組んで頂ければ幸いです。

以上については、外部各界各層の適切な指導助言を必要とはしますが、最終的には二本松の全市的英知結集が“カギ”を握り、その決意にご期待申し上げます。

2018年（平成30年）10月23日

糠澤 修一